

会場案内

JAビル カンファレンスセンター 4階 401A
 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル
 TEL:03-3212-1912(代)

- 電車でのアクセス
 - ◎地下鉄千代田線・半蔵門線・三田線・東西線・丸の内線(東京メトロ) 大手町駅下車 C2b出口
 - ◎地下鉄東西線(東京メトロ) 竹橋駅下車 4番出口
- お車でのアクセス
 - 首都高速道路: 神田橋インターチェンジをご利用ください



お申し込み方法

下記のいずれかの方法で、お申し込みいただけます。その際に、開催日またはタイトルをお伝えください(定員になり次第、締め切らせて頂きます)。また、ご案内のセミナーは基本的に機関投資家および資産運用に関連する方を対象とさせて頂いております。それ以外の方からのお申し込みはお断りさせて頂く場合がございますので、あらかじめご了承下さい。

こちらからお申し込み下さい

- ① <https://www.fromhc.com>
プロ投資家向け 資産運用情報サイト「fromHC」
- ② FAX: 03-6685-0686
- ③ TEL: 03-6685-0683

※今後、セミナー案内をご希望されない方は、誠にお手数ですが、セミナー事務局まで、お電話(03-6685-0683)か、E-mail(info@fromhc.com)にて、ご連絡をお願い致します。

本セミナーは、資本市場における種々の投資対象や投資に関する概念等について解説・検討することを目的としております。
 本セミナー終了後には金融商品取引契約の勧誘を行う場合がございます。金融商品取引契約においては、投資対象の価格変動等により損失が生じる恐れがあります。また、報酬や諸経費は、契約毎に投資対象の種類等が異なるため、予め表示できません。なお、契約毎にリスク及び報酬や諸経費は異なりますので、契約締結前交付書面等をご覧下さい。

HCアセットマネジメント株式会社
 一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会、一般社団法人投資信託協会加入
 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-11 Tel.03-6685-0681 Fax.03-6685-0686

事業価値と 資本構成

8/18 (火) 東京

15:00~17:30
(開場14:30)

会場: JAビル カンファレンスセンター 4階 401A
 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル
 TEL: 03-3212-1912(代)

[人+産業金融=成長]
 成長を支える投資の原点へ

HC
 asset
 management

Seminar
 2020

ご挨拶に代えて

企業年金が企業価値を高めるわけ (2020.04.02)

『森本紀行はこう見る <https://www.fromhc.com/column/>』より

企業年金のもつ人事処遇戦略上の機能、より具体的には、同じ報酬額を支払うのに、等価交換の経済取引として、年金の現在価値相当分で月例給与を増額できるのに、取って年金化する意味が問題にされなくてはなりません。

つまり、給与と年金の経済価値が等価でも、取って年金化することで、そこに非経済的な付加価値、即ち企業と従業員の双方の利益が発生していなければならないのです。

企業の利益は、「従業員の安定的な資産形成」を支援することにより、従業員を大切にしたいという思いを表明し、その対価として従業員から勤勉や精励を得ることであり、従業員の利益は、豊かな老後生活のための資産形成を企業が支援してくれることで、必要な自助努力の負担が小さくなることです。こうして、企業年金は、従業員の利益となり、その従業員という重要なステークホルダーとの適切な協働によって、同時に株主の利益ともなるわけです。

人的資源は、資産ではなく単年度の費用として使い切られるとき、企業年金は不要であり、長期的に価値を創造する資産として、時間の経過とともに熟練によって資産価値が増すものとして扱われるとき、企業年金は必須のものになるということです。

産業構造によって人の熟練のもつ意味は大きく異なるわけですから、企業経営にとっての企業年金の意義も様々ですが、普遍的にいえることとして、経営者は、人間の価値創造の能力こそ産業の基盤であり、その能力の開発に企業の競争力の本質があることを認識しなければならず、その認識を明らかにすることが「コーポレートガバナンス・コード」の第2章の基本原則の意義なのです。

講師：森本紀行

講演内容

投資の原点は、事業投資です。事業価値とは、企業が事業活動を通じて生み出すキャッシュフローの現在価値です。ある企業の事業自体に事業価値がないならば、その株式も、社債も、その企業への融資も、投資価値がないはずで

株式や債券・融資などの伝統的な資産は、伝統的な企業金融のあり方を前提にしたもので、その企業金融の構造が変われば、リスク管理の視点も変わり、資産構造にまで波及します。一方で、特定の資産の取得や、特定の開発案件の遂行など、事業毎に目的(オブジェクト)を特定して、その目的だけを分離して、資金調達する事業金融(オブジェクトファイナンス)の場合、リスクは特定事業の範囲内に限定されます。

資金調達においては、金融の社会的機能の拡大に伴い、制度的分業化が進行し、株式や社債(債券一般)などの証券は資本市場を経由した資産運用業の対象となり、融資は銀行業の対象となりました。さらに、優先劣後に基づいて調達手段の高度化が進んでいます。

もはや、単純な株式・債券投資では、有効な分散投資はできません。複雑化した資本市場のなかで、事業投資という原点への回帰が必要になっています。そして、その事業価値に参画する技術論として、資本構成上の選択が、新しい資産配分の基礎になっていくと思われます。今回は、投資の原点である本質的なテーマを取りあげます。

講演項目

●企業価値と事業価値

- ◎合理性なき多角化と事業経営の合理性
- ◎ガバナンス一体改革

●事業キャッシュフローと資本構成

- ◎事業価値変動を吸収する最適資本構成
- ◎事業価値に対するバリュートとグロース
- ◎インカムとリスク

●多様な資金調達の方法

- ◎オブジェクトファイナンスとリスク管理
- ◎高度化する投資機会
- ◎資金調達の構造変化による伝統資産の解体



講師略歴

HCアセットマネジメント株式会社
代表取締役社長

森本紀行

三井生命(現大樹生命)のファンドマネジャーを経て、1990年1月ワイアット(現ウィリス・タワーズワトソン)に入社。日本初の事業として、年金基金等の機関投資家向け投資コンサルティング事業を立ち上げる。2002年11月、HCアセットマネジメントを設立、全世界の投資機会を発掘し、専門家に運用委託するという、新しいタイプの資産運用事業を始める。東京大学文学部哲学科卒。